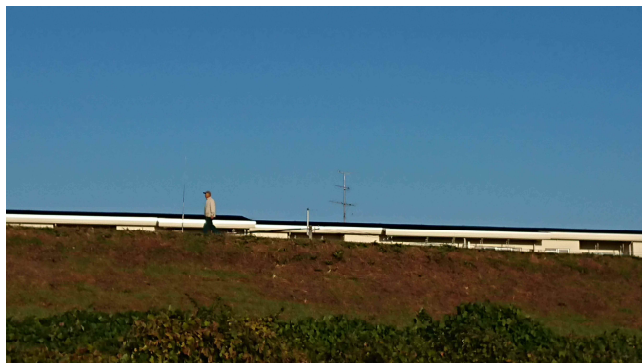
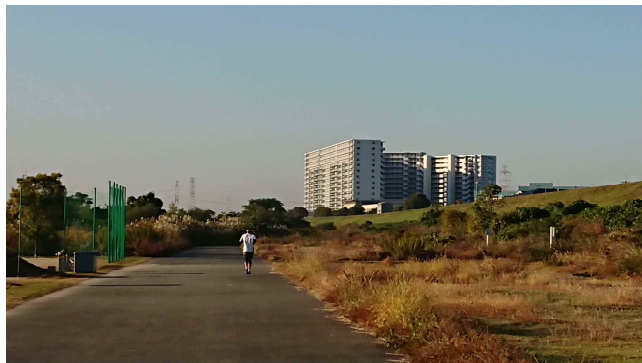


10月 モニターレポート		担当出張所	山崎出張所
担当区間	檜尾川合流点～大阪京都府境（阪急大山崎駅付近）（右岸28.2～35.4km）		
モニター実施日時	令和元年 10月31日（木） 6：00～7：30		
天 候	晴れ・くもり		
<p>（見出し）</p> <p>朝の河川敷について</p>			
<p>（内 容）</p> <p>今回は、まだ行ったことのない時間帯の河川敷へ行ってみました。朝方です。</p> <p>早朝（5：00頃）は、さすがに人はいないだろうと思って、出勤前6：30に河川敷へ出向きました。</p> <p>始めに申し上げると、晴れた河川敷はとても気持ちの良い環境でした。</p> <p>朝の光と共にあるすがすがしい空気が、一日の始まりを過ごすにはもってこいの場所でした。</p> <p>近所に住んでいる人は、出勤前に度々出かけてみると生産効率が確実に上がるのではないかと思います。</p> <p>予想していた以上に、ウォーキングやランニングをしている人が多く、河川敷は人々の憩いの場所であることを改めて感じました。</p> <p>そんな中、河川敷にあったベンチが朝露で濡れており、座るに最適な状況でした。朝露が付きにくい物質でベンチが出来ていればよいのかとも思いましたが、一方でなかなかそこまでを求めるのは酷ですね…。</p> <p>しかし、朝の時間をゆっくり過ごすためには、やはり座れる場所があった方がよいなあと思います。</p> <p>（朝露を拭けばすむ話なのですが、拭いてまで河川敷でリラックスしたい人は私くらいだと思うので、特に問題ではないと思います。）</p> <p>さて、秋も深まり、河川敷の植物も勢いを失くしてきました。</p> <p>変わらず虫の声はやみませんが、葉を枯らす植物も増えてきて果実が目立ってきました。</p> <p>今回気付いたのは、河川敷の路傍には、動物散布の果実、俗に「ひつつきむし」と呼ばれる果実が多くみられ</p>			



たことです。しかも結構な勢いで繁茂していました。

目立つ種類としては、コセンダングサとアレチヌスビトハギです。これらの植物は、根に強力なアレロパシー作用をもっているため、どんどん勢いを増していました。

同じアレロパシーを持つ種としては、セイタカアワダチソウがあり、こちらも今回多く観察できました。

これらのアレロパシーを持つ外来種は、ヨシ原など貴重な生態系が維持されている当該地区だからこそ、余り見たくない植物ではありますが。河川敷の景色がこれらの外来種で覆われるのは避けたいです。

もう少し攪乱圧（刈り取りや野焼きなど）が高ければ、勢力は半減すると思います。

夏に繁茂した植物の陰で、ごみやタバコの吸い殻のポイ捨てが多かったようで、秋になり、地面が見え始めたことによって、結構な量のゴミが発見されました。

見つけたものは持ち帰りましたが、まだあると思います。

掃除などがどのようにされているのか、少し気になりました。

今回は以上です。

また来月よろしく願いいたします。



（意見・感想・処置等）

今月もモニター活動、お疲れさまでした。写真の雰囲気からも、河川敷はすっかり秋模様ですね。ゴミ拾いまでしていただいたようで、ありがとうございました。疑問に思われた河川敷の清掃については、河川の維持管理や河川パトロールを行っている国土交通省が直接ゴミ等の不法投棄の回収を行っています。また、河川レンジャーさんや、地域住民の方たちも、クリーン作戦と銘打ち、定期的にボランティアで清掃活動などをしてくれています。

そして、今回は早朝という時間帯、また新鮮な観点からのモニターレポートとなっていますね。まだ多くの方

が活動を始める前の時間帯ですが、それでも活発に動いておられる方はたくさんいます。朝露拭えぬベンチは残念ですが、ウォーキングやランニングをされている方を見かけると、こちらにも元気を分けてもらっている気分になります。

“アレロパシー”という言葉調べてみると、植物の生産する物質が、他の個体あるいは他の生物に及ぼす作用とのこと。「セイタカアワダチソウ」や「ヒメジョオン」が阻害物質を出して、周囲の植物を駆逐したりするのが代表的な例のようですね。淀川河川敷のヨシ原では、“ヨシ原焼き”という、ヨシ原の保全、害草・害虫駆除、不慮の火災防止などを目的として行うことが恒例行事となっています。ちなみに、今年は、2019年2月17日に開催されました。もしご興味があれば、来年、足を運んでみてください。（開催日時は、高槻市のホームページに記載されます。）

それでは、次回もまた、淀川の魅力あふれるモニターレポートを楽しみにしています。